

早春の花木といえば桜が有名です。そんな桜より早く、いの一に春を知らせる花木が「サンシュユ」です。黄色い花を枝いっぱい咲かせるためとても目立ち、別名「春黄金花」とも呼ばれます。また、秋・冬には赤くつややかな実がたくさん着き、その姿は枯野の中で一際目立ちます。一株で二度美味しい佳木と言えます。

今年度も外来魚駆除活動を行います

活動① バス・バスターズ



人工産卵床

バス稚魚すくい

バスバスターズのスケジュール

5月							6月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5						1	2
6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9
13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16
20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23
27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30

○：活動日

活動② 電気ショッカーボート

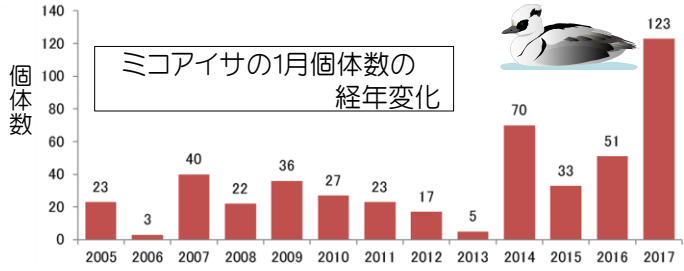


赤線は運行範囲です。

6月上旬まで週2回(火・金)を中心に行います。

成果

長年の活動により、外来魚が減少し、魚類や水鳥が増えてきました。引き続き、皆さまのご協力をお願い致します。



— 伊豆沼・内沼生き物図鑑 スミレの仲間 *Viola* sp. —



様々な花色のスミレ
(タチツボスミレの仲間)

陽気に誘われ色とりどりの花々が咲きそろそろ季節となりました。足元に目を凝らすと、到るところで小さな草が花を咲かせていることに気づくでしょう。このような小さな草花を代表するグループがスミレの仲間です。水辺から乾燥地、海辺から高山に至るまで、日本には多種多様なスミレが生えています。伊豆沼周辺にも多くの種類が生育しており、湖岸の湿地には白地に紫が映えるアリアケスミレやひよろ長いツボスミレが群生し、乾燥した斜面には赤紫色が鮮やかなシハイスミレが、人家周辺には濃紺色のホンスミレが見られます。また、山裾に生えるタチツボスミレは、花色に変化が多いことで知られています(写真: 白色、紅色、赤紫色、薄紫色、青紫色など)。

スミレの仲間はどれも小さいため、他の植物が茂ると負けてしまいます。そのため、里山が放棄されササ原が広がりつつある近年は、数を減らしているスミレの仲間も存在するようです。また、宮城県のヨシ原には、タチスミレというめずらしいスミレの仲間が生育していましたが、干拓によって絶滅してしまいました。多種多様なスミレの仲間が生育する、豊かな伊豆沼がいつまでも残ることを願ってやみません。

— 新職員紹介 —



事務局長
中村 雄一

四季折々の動植物を楽しめる施設を創出します。



業務補助
佐々木 浩司

伊豆沼内沼の環境保全に努めると共に地域社会に貢献します。



事務補助
伊藤 ひろみ

生き物が大好きです(特にツバメ)。自然豊かな栗原が大好きです。



業務補助
浅田 英信

つきだて館では、飼育中のゲンゴロウ、ガムシをご覧いただけます。



〈事務局〉

〒989-5504宮城県栗原市若柳字上畑岡敷味17-2
(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団
Tel0228-33-2216 Fax0228-33-2217

ホームページ:<http://izunuma.org/>
E-mail:izunuma@circus.ocn.ne.jp